

## 2021/04 R3 年度冬 湘南ブロック中学校サッカー新人戦(ゲーム分析)

### ■2021 栄光サッカークリニック

◇日時:2021 年 12 月 18 日～21 日

◇場所:リモート

◇参加:千野・高橋

◇内容:湘南大会(ゲーム分析)

#### (1)概要

2021 年 10 月終盤に行われた秋季「鎌倉市中学校新人戦サッカー大会」で栄光はシード校にも拘わらず岩瀬中に初戦敗退を喫した。2020 年度も同大会に於いて初戦で敗退しているため、初戦相手の玉縄中はその後優勝を果たしたが、その敗退原因をすべてコロナ禍の状況下での練習不足などに押し付ける事は、他校も同様な環境下で戦っているのでまったく言い訳にはならない。自分たちのチーム内の問題として原因究明すべきだろう。

今年度の中学冬の新人戦は、初戦から4回戦(ベスト8確定後に6位決定)までの4連戦を観察する事ができたので、観察メモを基にチームの状況を分析した。

#### (2)戦績経過

冬の新人戦の経過は、次の通り。

初戦:12/4(土) ○ 栄光中 7-1 湘南学園

2回戦:12/5(日) ○ 栄光 2-1 旭が丘

3回戦:12/11(土) ○ 栄光 3-1 御成

4回戦:12/18(土) ● 栄光 2-0 相洋(ベスト8確定)

5位決定戦:12/19(日)栄光は、村岡中に1-0で勝つも、大庭中に0-2で敗退の結果6位に決定した。(5位までが県大会に進出)

#### (3)チーム分析経過

##### 1.公式戦の環境

いわゆるコロナ禍の影響で様々な状況変化があったが、10月～11月あたりは第5波が収束するかに見えたが、結果は、新たにオミクロン株という変異株の出現によりこれまでのデルタ株との入れ替わりが展開され第6波が急速に動き出した。

従って、中学の新人戦は、丁度第5波と第6波の間の期間に実施された事になる。

##### 2.チームの状況

長期にわたるコロナ禍の影響で、部活動の制限もかなり強い事実は事実。コロナのまん延防止

策の一環で部活動禁止、対外活動禁止などにより通常の部活動の縮小化、練習試合禁止、公式戦出場禁止などの校内独自ルールが随時適用された。

その結果、「練習不足」による体力低下などは明らかに影響があると思われるが、コロナ禍の影響は他校も同じなので、これだけを取り上げて原因追及する事は妥当では無い。

### 3.戦績結果

戦績結果を見ると、鎌倉市内中学サッカー大会に於いて、4月の春季大会には優勝したにもかかわらず10月の秋季大会では初戦で敗退した。この結果がコロナ禍の影響であるとは思えないので、試合経過の様子を踏まえて分析する必要がある。

また、鎌倉大会直後に始まる湘南ブロック新人戦の経過では、4月からの春季大会でベスト8、12月の秋季大会もベスト8まで勝ち残ったが、5位～8位の代表決定戦の結果6位となり、5位までの関東大会出場権を逃した。表面的な結果で言えば、春季・秋季ともベスト8止まりだった。

鎌倉大会や湘南ブロック大会でベスト8のレベルでブロック代表を争っている他校はだいたい同じ顔触れで、鶴沼、玉縄、村岡、慶応、羽鳥、腰越、旭が丘、相洋、日大藤沢、浜須賀、大庭などが入れ替わっているが、栄光を含めて格段の差がある訳では無い。

栄光の順位の浮き沈みが激しく感じられるが、これは相手との競り合いと言うよりは自分のチームの調子の浮き沈みと捉えるべきだろう。漠然と言えば、心の準備次第、覚悟の度合い、油断などと言えるが、これらが原因の一つであると言えば当たっていると言えば遠からずで無視はできない要素である。

更に細かく観察してみると、栄光チームは、フィジカルには個々の選手の格差があるようで、試合中の競り合いでもフィジカルに負けない選手と足が遅い、早い、弱いなどの選手も混じって半々くらいか。従って、選手がフィジカルに均等化するトレーニングは効果が高い必須の練習課題だろう。

また、チーム全体に言える事は、トラップやパスのインパクトの瞬間の正確性に欠ける。つまり、インパクトの瞬間の動作が遅いため、その間に相手がどんどん追いついて来て直接競り合いに持ち込まれてしまうケースが多い。セカンドボールが確保できない理由の一つである。「動作の俊敏性(quickness)」は走るスピードの速さ(speedy, fast)とは別個の要素技術である。動作の俊敏性を上げるには、①インパクトの瞬間の意識強化、②反復練習による安定した動作の確保の何れも上達には必須の要素である。

上記の「俊敏性」が安定化すると、動作の結果までの短縮された時間により周囲のルックアップなどの余裕が生まれ、正確なトラップやパスと相乗効果を生み「次のプレー」につなげられる。このポイントの克服の程度により、大会での順位は大いに改善できると確信する。

直近、12月の新人戦の戦績に戻るが、初戦から4連戦を観察する事ができた。ここで明らかに、○初戦 7-1、○2回戦 2-1、○3回戦 3-0、●4回戦 0-2(ベスト8)と段階を追って相手のレベルが上がってくると得点が減って勝てなくなる。得点できないのは、相手の「俊敏性」が上がってくるので自分達のイメージするプレーの展開ができないと言う事になる。つまり、①意識を上げる、②反復練習の成果を出すの成果が出てくればもう少しプレーに安定感が出て得点できるはずだろう。

インパクトの瞬間の集中力は非常に重要で、これはシュートの瞬間も同じ。毎試合必ず得点チャンスは1~2度は現れる。このチャンスを何が何でもゴールする執念に欠けているのである。惜しいシュートは何の意味も無い。得点して初めて意味が出る。

#### 4. 練習の工夫

上記に書いたように動作の瞬間の意識を上げるには、「意識する」「反復練習による確実化」と言われても具体的にどういう練習を積みれば良いかのイメージアップにはつながらないだろう。

練習には、いつも「○○するための練習」とその目的が明示されている。しかし、この課題を克服するための特別な種目や練習メニューがある訳では無いとも言える。簡単に言えば、練習の種目やメニューというよりは、どのような練習をする時にでも「インパクトの瞬間に集中する」事が重要で、トラップやパスの日常的な練習のプログラムの中でも常に「意識を持たせる」事が重要である。

これらの練習を組み合わせ、合理的な効率を上げる練習メニュー展開はいろいろ考えられるので、別の機会に練習内容を相談したり、数少ないグラウンドに於けるクリニックの実践の際にアドバイスできると考える。

以上